

# 長安寺だより



「いまここ」に生かされて

住職 松倉 太鋭

都内の新型コロナウイルス感染者が大幅に増加し始めたのは今春の三月下旬からで、緊急事態宣言が出た当初は二百人を超えていました。現在、第三波によってさらに多くの感染者が出ております。

「人間は何事も馴れる存在である」と言われていますが、まだもう少し忍耐が必要でしょう。

禅の書の中には『碧巖録』という書があり、その中に「洞山無寒暑」という公案があります。

僧洞山に問う、「寒暑到来、如何が回避せん」  
かんじょとうらい いかん かいひ

山曰く「何ぞ無寒暑の処に向かつて去らざらん」  
なん むかんじょ さ

僧曰く「如何なるか無寒暑の処」  
いか むかんじょ ところ

山曰く「寒時には闇嚙を寒殺し、熱時には闇嚙を熱殺す」  
かんじ じゃり かんさつ ねつじ じゃり ねつさつ

と答えたそうです。この「寒暑」は「生死」でも「苦楽」や「迷悟」といつても同じことです。闇囿とは自分のこと。「今」から逃げず、暑いときは暑さになり切り、寒いときは寒さになり切る。そこが無寒暑のところだよ。と洞山大師は答えています。

今はコロナ禍の真ただ中です。どこを見てもコロナばかりで皆様もうんざりしているかと思えます。ですが決して考えること、我慢することを放棄して短慮な行動に走ってはいけません。愚痴をこぼすより、心の換気に心掛けるべしということです。

この大宇宙には何億もの天体があります。その中でも空気や水、太陽のある「地球」の中に生かされている私たち。私たちはその恩を忘れがちです。

この地球にはさまざまな生き物がいる中で「人間」として生かされている「恩」も忘れがちです。昔は山野を駆けめぐり木の実を食べ、野生の動物を殺して生きた時代もありました。

いまは、スーパーに行けば食べ物は何でもある。今。この現代文明の「恩」も忘れがちです。便利で恵まれた日常生活をつづけているうちに、とかく不平や不安も出がちでもあります。

今ここに生かされている。この意義を実感し、感謝の念を忘れないこと。これが、人生を生きぬく真髓であると、洞山大師は教えています。

お互いに今回のコロナ禍の自粛生活で生きることの大切さと、多くの人に支えあって生きることが学びました。どんな状況でも、この自分の務めを果たすこと。それが大自然に報いていくことなのです。



## 永平寺貫主退任

本年、曹洞宗大本山永平寺の貫主をつとめられた福山諦法禅師が退任されました。永平寺七十九世であり、前任は有名な宮崎奕保禅師でございます。修行時代に私がお仕えしていた方で、無事退任を迎えられたと思うと、なんとも感慨深いものがあります。

永平寺の中には部署がいくつもあり、公務の内容がすべて違います。その部署を寮舎と呼び、修行僧は自分の修行する寮舎を選ぶことはできません。公務の内容は違いますが、その一つ一つが大切な修行の場だからです。その中でも永平寺貫主のもとで修行する寮舎を「不老閣」と呼びます。

この不老閣は永平寺の中でも特に作法や規律に厳

しい場所でした。永平寺貫主のもとで修行するので、すから当たり前といえ、当たり前ですが、気の抜けない修行の日々を過ごしていたことを今でも覚えております。

ひとつ前の寮舎では永平寺を開いた道元禅師が眠る場所で修行し、その後には永平寺貫主のもとで修行する機会を賜りました。修行僧は与えられた公務に不平不満を言わず、悦びの心をもって臨むべしと言われていますが、中々巡り合えない機会に恵まれたことを今でも感謝しております。



退任された福山諦法禅師

# 施食会のお知らせ

例年五月二十三日に施食会を開催しておりますが、本年はコロナウィルス蔓延のため寺院のみで務めさせて頂きました。

来年の施食会もまた、様子を見ながらの開催となります。近くなりましたしたら開催の有無を手紙やホームページなどでお知らせ致します。色々ご迷惑をお掛けいたしますが、どうぞ宜しくお願い致します。

## 長光寺行事について

坐禅会、写経会、梅花講は現在休止中です。コロナウィルスになんらかの解決があるまで、再開の予定はありません。どうぞご了承下さい。

## オンライン法要について

新しい生活様式が必要とされる中、法要も皆さまのご要望にお応えして、オンラインでの受付を開始しております。詳しくはホームページをご覧ください。



## 編集後記

令和二年は我慢を重ねる一年でございました。ですが、ずっと良いことが続くことがないように、悪いこともずっと続くことはありません。令和三年に向けて皆で一緒に前へ前へと進んで参りましょう。

